

事務事業名 排水路整備事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:03 防災・消防対策の充実

基本事業:04 治山・治水対策の促進

部名:都市建設部

課名:土木課

計画年度	年度	～	年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計				
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民、市の管理する水路				排水機能の低下している水路をコンクリート構造物等による水路整備を行うことで、治水対策と環境衛生の向上を図る。 工事実施までの流れ 地元区からの要望受付→現地調査→工事箇所の選定 →測量・調査→工事実施 平成21年度 水路整備工事 7路線 L=760m 委託料 472,500円 工事費 26,218,500円							
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）											
水路が整備され排水機能が向上する。											
4 活動指標・成果指標・事業費の推移											
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値			
活動指標	水路整備実施箇所数			箇所	10	7	5	5			
活動指標											
成果指標	水路整備を実施した整備延長			m	1,006	760	800	800			
成果指標											
事業費				千円	60,181	39,388	40,000				
うち一般財源				千円	18,928	39,388	40,000				
5 目的妥当性											
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				水路を整備することにより、水害による浸水等の被害が抑えられるため、市の事業として実施することは妥当である。							
6 上位の基本事業への貢献度											
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				水路整備工事の実施が、治水対策の促進に繋がるため、貢献度は大きい。							
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討											
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				治水対策の促進に関する事業であり、対象・意図の見直しはできない。							
8 有効性（成果状況）											
○ あがっている ● どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				整備延長は、計画に満たなかったが、実施箇所は、計画を上回り、成果はあがっている。 継続して事業を実施することで、成果向上の余地はある。							
9 有効性（成果向上余地）											
○ 成果向上余地・大 ● 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し											
10 事業の再編成											
○ 類似の事業があり、再編成できる ● 類似の事業はあるが、再編成できない ○ 類似の事業はない				浸水対策事業に類似しているが、対象が相違するため、再編成できない。							
11 効率性（コスト削減の方法）											
○ ある ● ない				現場条件に合わせ最大限に成果が得られる施工方法を検討し、コストの縮減に努めて実施しているため、コスト削減余地はない。							